

令和6年度 かりゆし諸見保育園の自己評価

テーマ「専門職としての保育者とは」

○当園が目指す保育とは？

- ・日々子ども達の姿から保育者同士で語り合い、一人一人の思いを大切に、「たのしい！」「はっけん！」「やってみたい！」を叶える保育を紡ぎ出すこと。
- ・子ども達が安心感を持って自己発揮し、友だちや保育者と生活や遊びを通して経験を積み重ねていける保育。

○その保育を実現するための課題

- ・子ども理解（未熟な存在から有能な学びてとしての子ども理解）
- ・子どもの育ちを保護者と共有する（ポートフォリオの実践から）

○課題改善に向けての取り組み

- ・ポートフォリオ、ボードフォリオへの取り組み
- ・0,1,2歳児の保護者参加の行事（親子ピクニック）
- ・法人勉強会で外部講師依頼（羽地知香先生）
- ・室内、園庭の環境作り（木村歩美 保育環境研究家）



○課題改善の中から見えてきたこと、令和7年度の取り組みへのバトン

令和5年度から引き続き、ポートフォリオ、ボードフォリオの取り組みを続けてきた。前年度の課題としてポートフォリオファイルの全体像のイメージが出来ていない事が分かった為、保護者の皆さんがポートフォリオファイルのイメージができ積極的な関わりがもてるよう、ポートフォリオが閲覧できる場所を作り実践を行ったことでイメージができ積極的な関わりに繋がった。また、入園面談時にも蓄積されているファイルを使って説明を行うことで保護者もワクワクしながら参加していることを感じた。

令和4年度から行ってきたポートフォリオの研究も来年度の全国私立保育連盟研究発表大会で集大成となる。また、研究発表を行う機会に大学の先生方を迎える機会が多々あり。「保育園で過ごす子どもたち一人一人がその子らしく過ごせる場所ですね」とのお言葉をいただいた。職員みんなで試行錯誤を行いながら保育を作っていることを改めて感じた。今年度も去年に引き続き沖縄女子短期大学の講師である羽地知香先生に法人勉強会の講師をお願いし年に会の法人勉強会を行った。保育園を会場に子どもの気持ちになって遊ぶことでさらに子どもたちの気持ちに寄り添うことに繋がるような研修になり参加している保育者も楽しんで参加していることが伝わってきた。さらに子ども理解を深めながら保育を展開させていきたい。

保育環境では、保育環境研究家の木村歩美を今年もお呼びしての保育環境ワークでは、園庭にタワーを作成最終的には子ども達も制作に加わってワクワクしながらできたタワーで遊ぶ子ども達の姿から「自分の力で登る」ということの保育での新しい感覚を味わうこととなり改めて日頃の関わりを考えるきっかけとなった。

来年度は、研究発表の集大成となる年になる改めて保育を考える年になるよう職員一同前進していきたい。